

《生坂村》 生坂村福祉ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒399-7201 東筑摩郡生坂村6253		
電話 F A X	0263-69-1122	0263-69-1123	
電子メール	info@ikusaka-shakyo.or.jp		
H P アドレス	—		
職員数	正規	1名	嘱託
	臨時	—	その他
開所日と時間	平日 8:30～17:15 土日祝を除く		
情報誌	かしわ		
来所者数	年間 1,075名		

〔センターの運営方針・指針等〕

地域福祉のソフト面を、小中学生を含むボランティアで支える。

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	配食サービス（献立会議）、公園ボランティア（整備作業、打ち合わせ、食事） 無料
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	テーブル、お茶、雑誌、流し台、調理器具
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	コピー機・用紙、草刈り機、カマ・クワ、一輪車、耕運機
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	高齢者疑似体験セット、車いす
登録グループの専用ポストの設置	—	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	無	規約作成予定
名称	—	
委員構成	—	
事業への関わり	—	
工夫点	—	
課題点	—	

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
協議会構成	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔財源〕

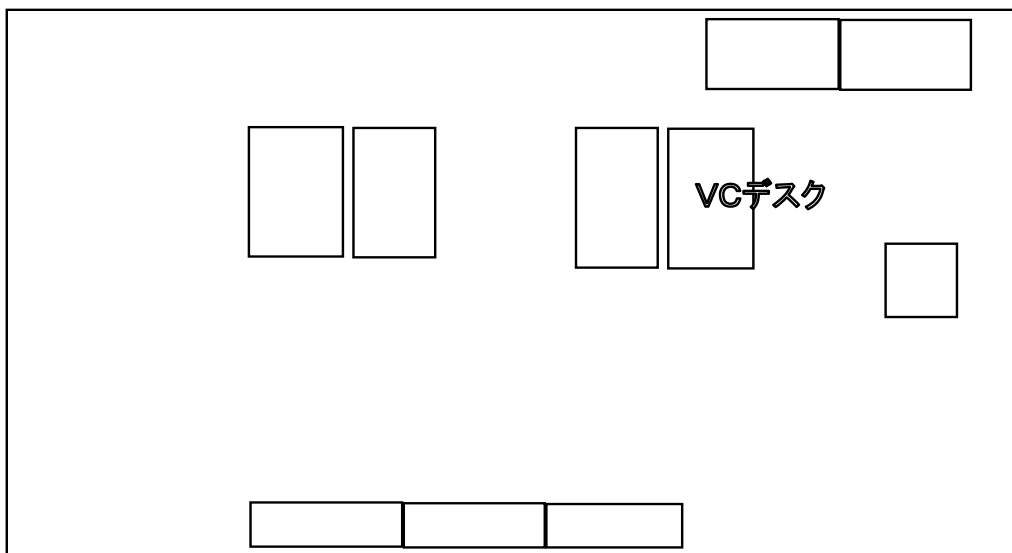
人件費	独自財源	〇	社協
共同募金	—	—	
委託料・補助金	—	—	
民間助成金	—	—	
その他	—	—	

事業費	独自財源	〇	社協会費
共同募金	—	—	
委託料・補助金	—	—	
民間助成金	—	—	
その他	—	—	

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？	—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等はありませんか？	
連携・協働先	連携・協働内容
—	—
—	—
—	—
○センターの強みと弱みについて	
<p>《強み》 約90名、延で200名を超えるボランティアの方々が、自由に出入りしてボランティアコーディネーターに気軽に声をかけて、アイデアや意見を言ってくれるので、村民の本音の話を聞く事が出来る。</p>	<p>《弱み》 他の地域支援事業も、同じ場所で行っているのので、ボランティアの方以外の人からは、VCの認知がされていないように思う。</p>

○VC見取り図



地域支援事業事務所と同居

○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	配食サービス	
目的	地域のボランティアが栽培している安心な野菜等を使った、バランスのとれた弁当を食べて頂く。	
開催頻度	平成 10 年度より 毎週水曜日（他の曜日は社協で作り配達）	
内容	<p>「調理ボランティア」「配達ボランティア」に分かれている。</p> <p>それぞれ4つの班に分かれて、毎週交代で参加する。</p> <p>村健康管理センターの調理室で9時ごろから調理を始めて、出来上がった弁当を11時ごろ配達ボランティアが各地区に分かれて配達し集金をする。</p>	
対象者	65歳以上の方	
企画のポイント 事業成果	<p>ひとり暮らしや、後期高齢者の皆さんに弁当を届けながら、交流と見守りをも含めている。</p> <p>利用料は400円で不足金は補助金として村より補助</p>	
参加者の声や その後の動き など	安くて、内容が豊富で美味しいと好評。	
事業の様子		
	事業の様子の写真等を 添付してください	事業の様子の写真等を 添付してください

事業名	ふれあい公園ボランティア
目的	社協遊休地を公園に作り替えて、皆が集える憩いの場所を作り、整備する。
開催頻度	春から秋 6～7回
内容	H20年～21年度に約1000坪の遊休地を公園にするため、設計から完成までボランティアで行った。以後は月1回のペースで花の苗植え、除草作業、小川の整備等を地域住民を含めたボランティア 毎回30～40名で作業
対象者	
企画のポイント 事業成果	車いすで入れるよう、また子ども達が安全に遊べる環境に注意した。
参加者の声や その後の動き など	大勢のボランティアで企画し工事をした事で、それぞれの方々に愛着がもてる公園になり、これからも整備を続け綺麗な公園にしようとの声が多い。

事業の様子

